

新たな茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針について

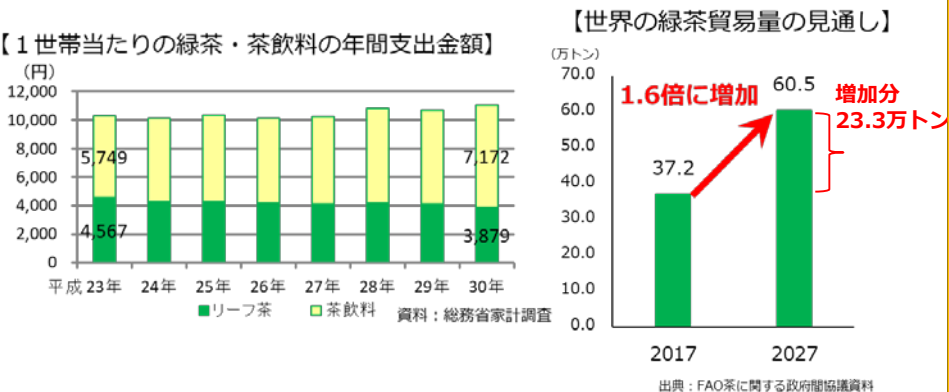
<現 状>

茶業及びお茶の文化の振興の意義

- 国民の豊かで健康的な生活の実現に寄与
- 中山間地域における重要な基幹作物
- 茶業は、裾野が広く、地域経済・雇用確保の観点からも重要な産業

お茶をめぐる課題

- 消費者の簡便化志向により、リーフ茶から緑茶飲料へ消費がシフト。
若年層のお茶への嗜好の変化や、特徴的なものへのこだわりなど、消費は多様化してきているが、こうした変化への対応に遅れた結果、お茶の消費が伸び悩み、価格が低迷。
- 一方、海外に目を転じると、世界の緑茶貿易量は今後も増加すると見込まれており、このような海外需要を取り込んでいくことが重要。
- 生産面では、急傾斜地を中心に、高齢化や繁忙期の労働力不足等により、今後お茶の生産が維持できなくなる恐れ。近年多発する災害等への対応も必要。



【主産県における販売農家数の推移】

	静岡	鹿児島	三重	京都	福岡	宮崎	熊本	全国
H12	24,019	4,309	4,598	1,330	2,217	820	1,277	53,687
H17	17,731	3,072	2,294	1,035	1,629	642	973	37,617
H22	13,933	2,216	1,455	825	1,385	513	695	28,116
H27	9,617	1,744	967	653	980	399	529	20,144

資料：農林水産省「農林業センサス」

<施 策 の 方 向>

今後の茶業及びお茶の文化の振興に関する基本的な方向

従来の取組の単なる延長ではなく、新たな発想のもと、**国内外の多様化した消費者ニーズを的確に捉えつつ、各産地の特徴や実情を踏まえ**たお茶の**生産、加工、流通の取組を促進**。

国内需要の長期見通し及び生産数量目標

お茶の国内需要の長期見通し：8.6万トン(H30) → **7.9万トン**(R12)
お茶の生産数量目標：8.6万トン(H30) → **9.9万トン**(R12)
(うち輸出 0.5万トン) (うち**輸出 2.5万トン**)

茶業の振興のための施策

○ 消費者ニーズに対応した品質・付加価値の向上の促進、加工及び流通の高度化

- ・多様化する消費者ニーズへの対応
- ・付加価値の向上のための取組の促進
- ・**生産者と流通・実需者が連携した取組**の促進
- ・品質の向上のための取組の促進
- ・加工施設の整備の促進

【生産者と流通・実需者が連携した取組（イメージ）】

観光業と連携した産地の活性化



○ 輸出の拡大

- ・海外**市場の開拓**の推進
- ・輸出の大幅な拡大に向けた**生産・流通体制の構築**
- ・輸出先国・地域が求める輸入条件への対応

【プロモーションの実施】



【輸出向け集出荷施設整備】



○ 生産者の経営の安定

- ・産地の特色に応じたお茶の**生産**の促進
- ・茶樹の**改植・新植**の促進
- ・**スマート農業技術の研究開発及び実証・導入**の推進
- ・茶園の基盤の整備
- ・中山間地域等の特色を活かした取組の促進
- ・茶園の継承・集積や離農茶園への対応
- ・自然災害等のリスクへの備えの促進

【戦略的な改植・新植】



【スマート技術の実証・導入】



○ 消費の拡大

- ・多様な消費者層に向けた**お茶の魅力発信**
- ・国内外の消費の拡大につなげるための、健康機能性や新用途への利用に関する研究開発の推進及びその成果の普及
- ・お茶を活用した食育の推進

【新たなお茶の飲み方の提案】



料理に合わせた日本茶

【健康機能性の発信】



機能性をPRしたパンフレット

○ お茶に関する情報の一元化及び活用

お茶の文化の振興のための施策

- お茶の文化に関する理解の増進
- お茶に関する文化財の保存・活用



茶道体験



文化的景観としての保護



茶産地の収益力・販売力の強化、持続可能性の向上